タイトルタイトル

ミュージアムロードの課題

- 特色ある資源は点在しているが、回遊を促す動線・仕掛けが不足
- 「ミュージアムロードらしさ」がまだ十分に感じられない（空間デザイン...etc）
- 地域住民・来訪者ともに文化やアートとの接点が限定的
- 行政区分をまたぎ関係者が多いため、恒常的なエリアマネジメント体制の構築が課題

コンセプトのタイトルが入ります・・・・・

― 文化と人の関係性を再編集し、新たな文化を育むミュージアムロードへ ―

まちを「かえる」七つのしかけ

情に棹させば流される。智に働けば角が立つ。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。とかくに人の世は住みにくい。意地を通せば窮屈だ。

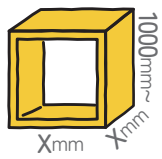
七つのしかけをまちに実装するステップ

step 1 まちのスキマにきっかけを「置く」（活動のめばえ）

まちの中にある“スキマ”（使われていない緑地や沿道空間、高架下など）に、アクティビティや活動の拠点となるしかけを配置する。

拠点を生み出すオブジェクト

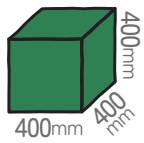
a. ロードウィンド



美術館では絵を切り取る額縁。まちに大きな額縁を置くことで、活動の拠点をつくると同時に、まちの営みや景色を切り取って見せる。

×

b. 美かえるボックス



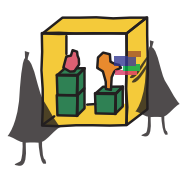
400mm 角のモジュールボックス。座る、物を置くなどの使い方ができ、組み合わせ次第で多様な活用へと広がる。

a.b. の組み合わせは無限大∞！

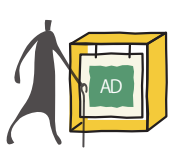
使い方カタログ

休憩スポット

露店



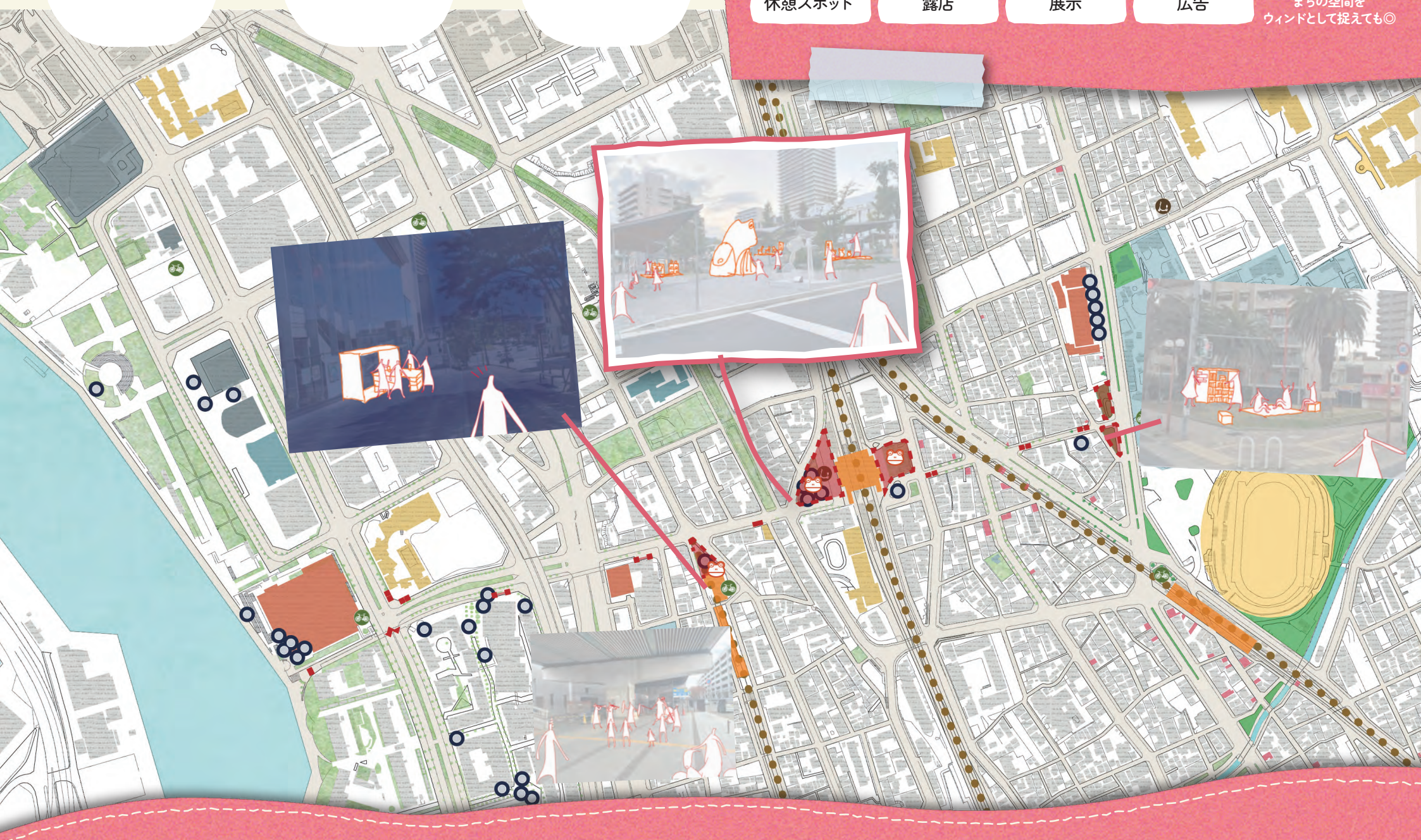
展示



広告

応用編

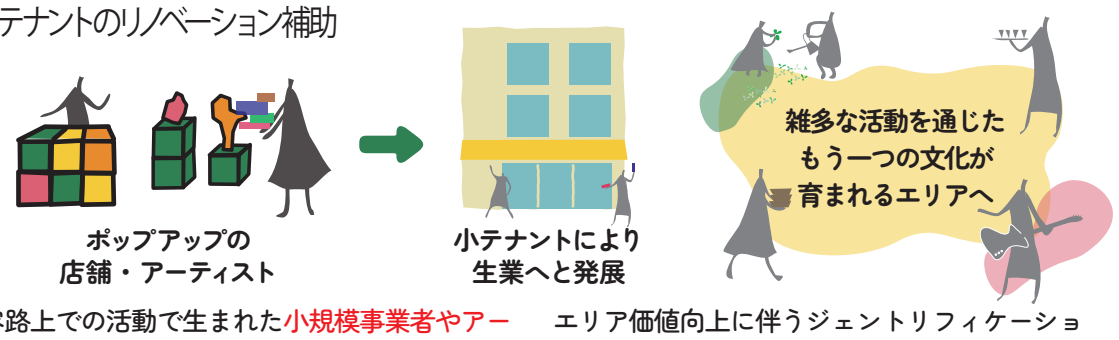
まちの空間をウィンドとして捉えても◎



step 2 きっかけを「つなぐ」

Step1 で芽生えた活動を、沿道建物の活用や用途誘導により、まちなかの空間へ取り込み、活動の展開を広げる。
さらに、ミュージアムロード上の活動を、道路空間の再編や新たな交通モードの導入によって、連続性のある動線として一体的につなげる。

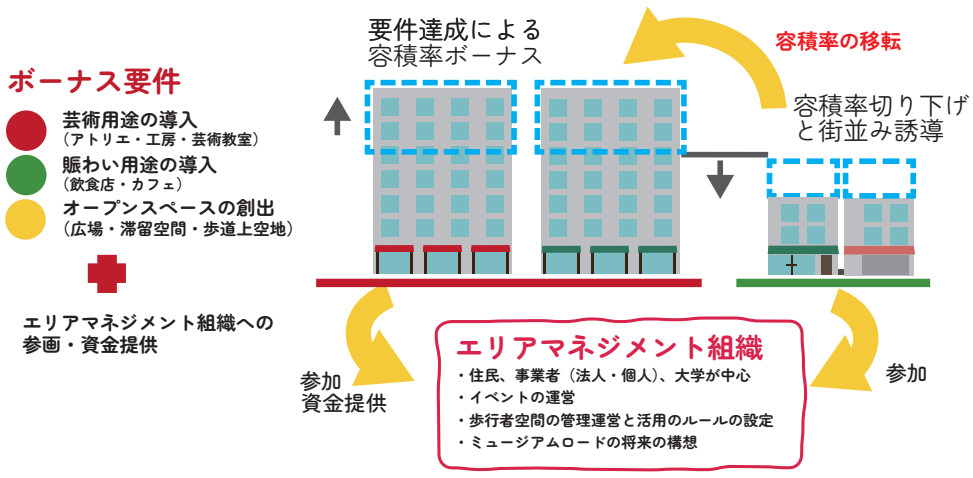
小テナントのリノベーション補助



容路上での活動で生まれた小規模事業者やアーティストの次のステップとして、小規模な生業を営める空間が必要である。

エリア価値向上に伴うジェントリフィケーションを注視しつつ、小規模なテナントの維持・増加を図る。このために店舗利用に伴うリノベに補助を行う。

美かえるボーナス（容積率ボーナスの仕組みづくり）



容積適正配分型地区計画を活用した容積率移転により、北側エリアでは小規模な店舗が集まり発見の楽しさを生みながら、モジュールで生まれたチャレンジが生業に育つ場を提供する。
JR 灘駅周辺においては、ミュージアムロードに沿って指定容積率を超えたボーナスを与えることにより建物の更新を促進し、ボーナス要件によって賑わい・芸術・オープンスペースなどの面から望ましい機能や活力を街に組み込んでいく。
ミカエルボーナスの適用を受けた事業者はエリアマネジメント組織に参画・資金提供を行うことを通して街の運営を担う一員になっていく。
南北に広がる各エリアが異なる役割を担い、制度・組織・機能を通じてつながりを育む。

北側（王子動物園側）道路のストリートパーク化

恒常的なストリートパーク
限定適なストリートパーク
（土日祝のみ）

比較的歩道が狭く、活動の余地が少ない北側エリアではストリートパークによって車道を歩行者空間化し、ミュージアムロードに関わる様々な主体が個性を発揮する空間を提供する。同時に歩行者の歩行快適性や歩きながら様々な活動を眺める楽しさによって南北の活発な往来を促す。ストリートパークの運営はエリアマネジメント組織が担い、路上での企画の支援なども行う。

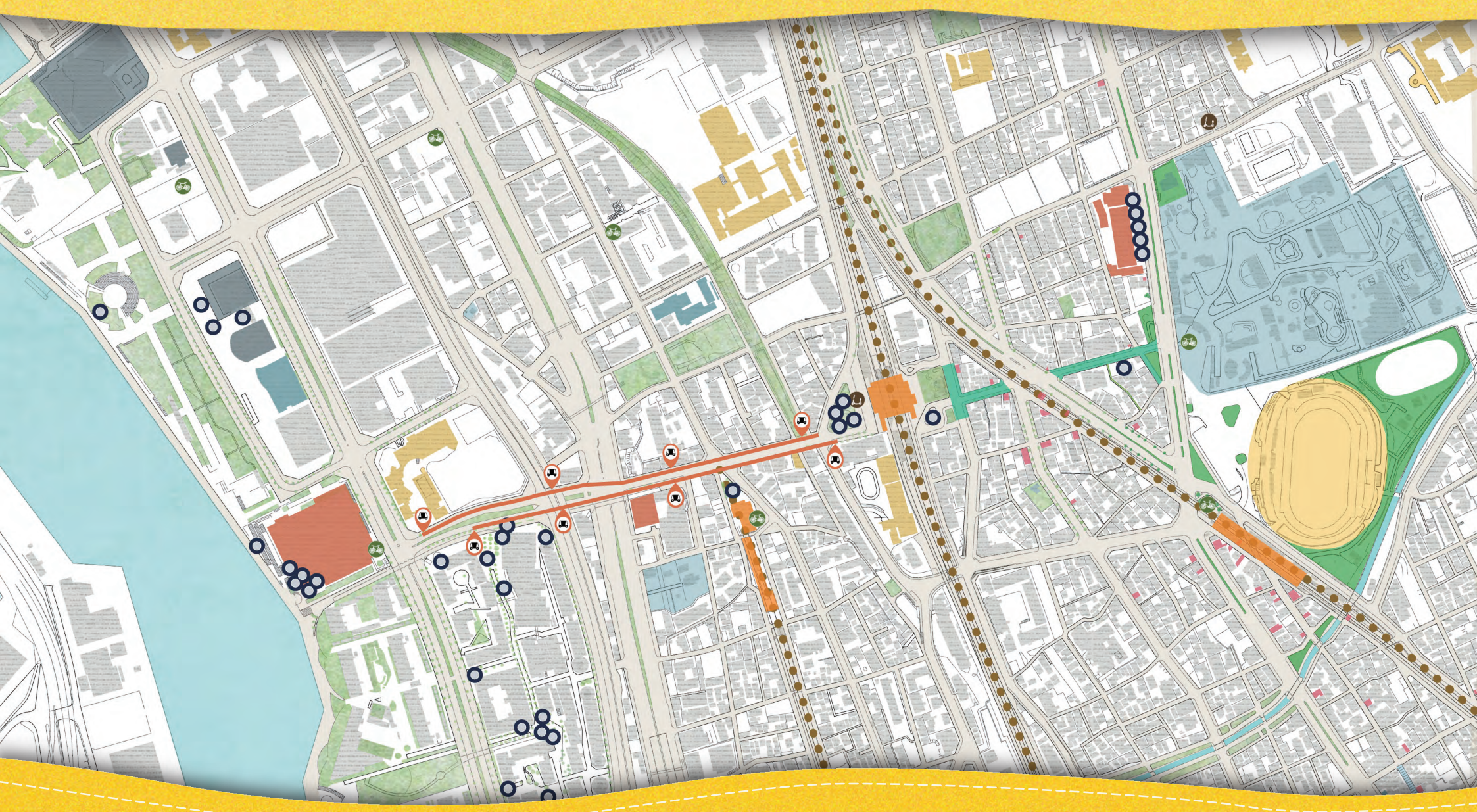
社会実験（ピクニックデイ、子どもお絵描きデイなど） ➡ **恒常的な歩行者空間化**

新モビリティの導入

将来的な次世代モビリティ導入を見据え、まずは社会実験により段階的な運用を行う。立ち乗り型・座り乗り型のパーソナルモビリティを試験的に歩行者空間で運行し、ミュージアムロード南北の移動を自由にする。
路面店や路上アートの前には専用ポートを設け、街路空間と一体となった停留・乗降のしつらえを整備する。あわせて小型バスや超小型モビリティにより、沿道拠点間の回遊性向上に加え、東西に広がる住宅街への宅配や移動支援を行い、日常と文化をつなぐ移動環境を構築する。

①社会実験
モビリティ４種の導入
（立ち乗り型、座り乗り型、小型バス、超小型）
➡ 利用者の属性・目的に応じたモビリティ選択

②歩行者空間整備
舗装、街路樹、夜間照明、サイン、占用ポートなどを段階整備
➡ 車中心から人中心へシフト

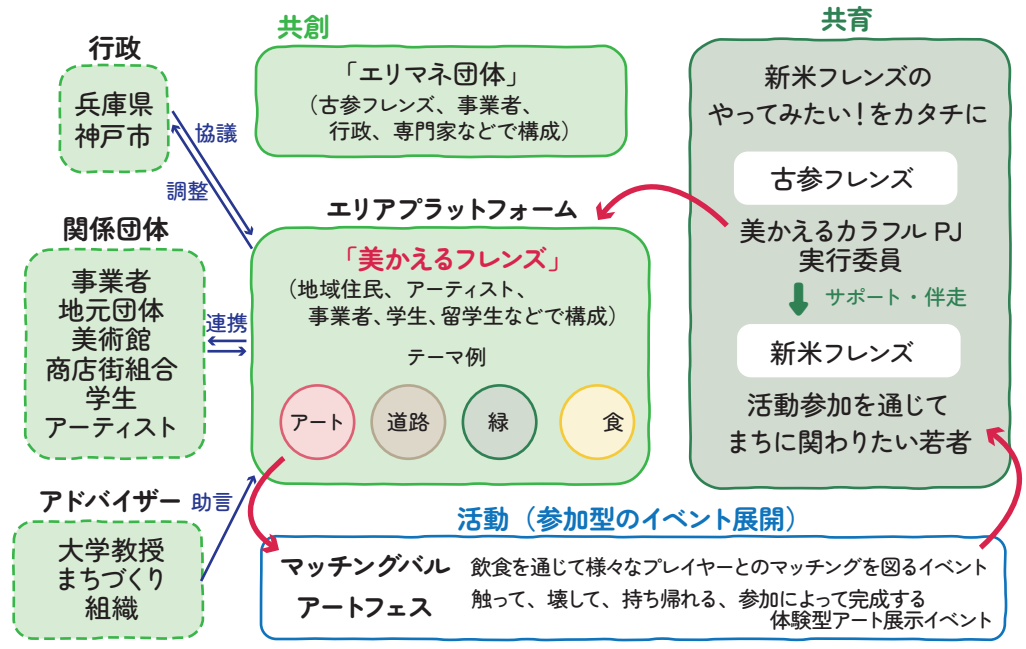
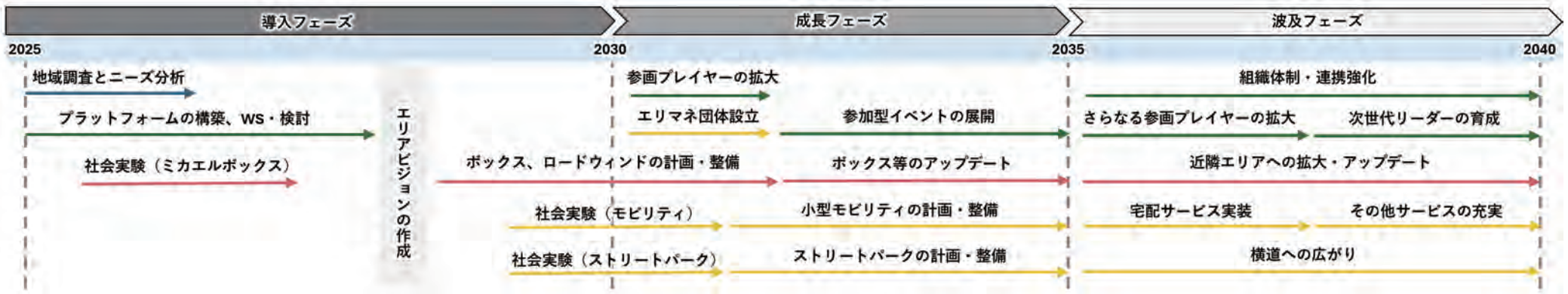


step 3

つながりを「育て、広げる」

共創により多様な主体が関わることで新たな活動が生まれ、その体験を通じて参加した若者の中に「やってみたい」という意欲が芽生える。そうした芽を共育の仕組みで支え、新たなメンバーや活動へと展開していくことで、人と活動が連鎖する循環が形成される。さらに、3 つの STEP の仕掛けによってこの循環が加速し、人と活動の連鎖が広がっていく。その積み重なりの中で、ゾーンごとに異なる個性が、結果としてまち全体に広がっていく。

「育てる」しかけ：共創・共育のプロセス



ロードマップ